

口蹄疫から農場を護るために 農家さんへのお願い

(有)シェパード 獣医師 松本大策

宮崎で発生した口蹄疫は現在のところ、都農町・川南町・えびの市に限局されていますが、すでに豚での感染拡大が起こっており、死亡例も出ているため、これまで以上に農場を護る努力をしなければなりません。

農場を護るための方法をまとめてみました。

- 1, 農場ごとにツナギと長靴を用意する
- 2, 他の農場を見に行かない
- 3, 消毒の徹底
- 4, 発熱などが見られた場合

1, 農場ごとにツナギと長靴を用意する

農場には、どうしても立ち入らせなければならない人や車両があります。車両は後述の方法で消毒するとして、人に関しては、**自分の農場専用の衣服と長靴に着替えてもらう**のが最も安全です。

ナイロンツナギと長靴でしたら3,000円程度で入手できます。自分の農場を護るために、ぜひご準備下さい。

2, 他の農場を見に行かない

このような不安な事態の場合、どうしても他の人と相談したりしたくなるものですが、口蹄疫ウイルスは人や車両が運ぶケースが多いので、決して他の農場へ立ち入ったりしないようにしましょう。

どうしても用件がある場合、電話やメールで済ませるのが安全です。



3. 消毒の徹底

1. 効果のある消毒薬

最も効果の高いと言われるビルコンは、現在国内での入手が困難となっています。しかし口蹄疫ウイルスに効果があるものは、意外に身近な場所で簡単に入手できます。

まず、「**炭酸ナトリウム**」を4%の水溶液にしたもの。宮崎県内ではこれで畜舎消毒をしています。主に靴底や車輛の踏み込み消毒用として使用しましょう(※畜体、人体に少なからず毒性のあるものです。取り扱いには十分注意しましょう)。

次に、「**お酢**」。穀物酢などですが、これは300～500倍程度に薄めても効果があり、牛にも悪影響がありません。これらは10年前の口蹄疫撲滅で陣頭指揮を執った白井教授が4月27日の農業新聞でも仰っていることです。

「**クエン酸**」も2%以上で消毒できます。1リットルに20gの計算です。

2. 農場の前に道路がある場合

必ず道路の管理者に許可を得て※(事故の発生に繋がること、罰則を科せられる場合なども考えられますので)、毛布を敷いた上で4%炭酸ナトリウム液を染み込ませておくと、タイヤで運ばれるウイルスを殺せます。あるいは、水をまいた上で消石灰を散布しておくとも良いでしょう。

※ 道路の管理者は、国道、都道府県道、市町村道、私道、それぞれ問い合わせ窓口が異なるようです。市町村役場に「緊急」であることを伝え、窓口を紹介してもらってください。

3. 農場の出入り口

消毒槽の設置が無理なら、毛布に4%炭酸ナトリウム(できればクリアキルやロンテクトを500倍になるように混ぜるとさらに良いです。)を染み込ませて敷いておきます。

4. 農場内

消石灰をたっぷりと通路や畜舎の外側の地面に撒いておきましょう。

手押しスプレーや動噴でたっぷりのお酢(300～500倍希釈液)を飼槽や牛房にまくと安心感がましますよ。

※ ただし、酸とアルカリは混ぜるといけないので、お酢は消石灰にはかからないようにしましょう。



5, マスクの着用

人間はノドでウイルスを運ぶことがあります。マスクを着用し、なるべく他の農場に近寄らないようにしましょう。

4, 発熱などが見られた場合

発熱などが見られた場合、ゴム手袋を着けて口の中を覗いてみて下さい。

水泡やびらん(タダレ)が見られた場合、電話で最寄りの獣医師にご連絡下さい。獣医師が発見した場合、発見者の獣医師もその場を動くことができなくなり、地域の戦力が減ってしまうためです。

5, 口蹄疫の疑いがある場合の心得

見つけて下さった方は、この国の安全に貢献してくれた素晴らしい人です。恐れる必要も引け目を感じる必要もありません。病気になったのは、あなたの責任じゃないからです。安心して「きちんと報告」しましょう。そうすることで、感染の拡大を防ぐことができ、**発見者は防疫上の最大の功労者**となるのです。

もしも、隠したり密かに処分したりすると地域全体への感染拡大を引き起こし、取り返しのつかないこととなります。

口蹄疫ウイルスは紫外線にも弱く、「今」を頑張って乗り切れば必ず消滅させることができます。明るい希望を持ってこの機会に、さらに強い畜産を目指しましょう！

日本の畜産は負けない！

